

新居水行 すいりゅう 徳島藩儒。文化十年四月十五日阿波國徳島富田中屋敷生れ、明治二年九月十五日歿（一八一七〇）。諱謙、字受益、幼名白太郎、通稱與一助。別號成園。岩本齋庵に學び、のち昌平坂學問所に入る。文久二年藩の儒官に列するも、京坂を奔走して勤王の志士と交はり、翌年幕府の壓力で三好郡池田村郷校教授にと遷。明治元年徳島に還り、翌年江戸の長久館學頭に擧げられたが、藩制改革を巡つて同志と共に朝廷に嘆願した稲田事件で罪せられ、芝白金の藩邸で屠腹を命ぜられた。新居湘香の父。